

第 3 章 少年事件にお

少年による特異・凶悪事件が相次いで発生していることを踏まえ、警察庁生活安全局少年課科学警察研究
動機等について調査した。その概要を次に記す。

(警察庁生活安全局少年課科

1 調査対象事件

	事 件 名	性別	年齢	学職	事 件 の 概 要
1	女性教師殺人事件	男	13	中1	教師から授業態度を注意され、ナイフで同人を数回刺し殺害する。
2	女子高校生殺人未遂事件	男	16	高1	同級生に無視されたことから包丁を購入し、教室で同級生を斬りつける。
3	警官拳銃奪取(殺人未遂)事件	男	15	中3	拳銃を奪おうとして、パトロール中の警察官の右胸をナイフで刺す。
4	女性教師殺人未遂事件	女	18	高3	好意を抱いた女性教師を忘れるために、同人を包丁で斬りつける。
5	成人男性強盗致死事件	女女	14・15	中3中3	成人男性から金員を奪おうと、同人の腹部等を蹴るなどして殺害する。
6	男子中学生殺人事件	男	13	中1	口頃から因縁をつけている同級生に対し、刃物で胸部を刺し殺害する。
7	祖父殺人事件	女男	16・15	無無	生活態度を叱責された姉弟が、祖父を殺害して死体を山林に埋める。
8	男性教師傷害事件	男	14	中3	教師の注意に立腹した生徒が、職員室に押しかけ、教師をはさみで刺す。
9	女子中学生殺人未遂事件	男	15	中3	体育館に入ろうとしていた女子中学生に対し、背後からナイフで刺す。
10	老女強盗殺人事件	男	14	中3	金員を奪うため、玄関に出てきた老女の胸部を刺し殺害する。
11	小学生人質事件	男	16	無	小学生を人質にして「マスコミを呼べ、全国に放送しろ」等と要求する。

2 事件にかかわった少年の属性や背景等

抽出した22の事件(加害者数25名)について、次のとおり分析した。

なお、分析に当たっては、●事件発生以前に、警察に検挙又は補導されたことがない者を「A群」(いわゆる「普通の子ども」

(1) 対象者の属性

項 目	A 群	B 群	全 体
①年 齢	17	8	25
13歳	2		2
14歳	1	3	4
15歳	5	1	6
16歳	3	2	5
17歳	5	2	7
18歳	1		1
②学 職	17	8	25
中学生	6	3	9
高校生	7	1	8
有職少年	1	1	2
無職少年	3	3	6
③家庭状況	17	8	25
実父母あり	13	1	14
実父のみ	1	2	3
実母のみ	3	1	4
実父母なし		4	4
④学校の出欠状況	17	8	25
不登校・怠学あり	7	8	15
問題なし	10		10

○加害者数25名に対する内訳

①年齢

・A群では、15、17歳が、B群では14歳が多い。

②学職

・A群では高校生、中学生が、B群では中学生、無職少年が多い。

③家庭状況

・A群では実父母が多い。

④学校の出欠状況

・B群では、すべて不登校や怠学がある。

(2) 犯行の動機・特性

項 目	A 群	B 群	全 体
①犯行動機	16	6	22
被害者への激高	3	1	4
被害者への復讐	2	1	3
金品目的	1	2	3
殺人願望	1	1	2
強さの誇示	2		2
要求の訴え	2		2
その他	7	1	8
②犯行の計画性と期間	16	6	22
状況依存的	4	3	7
計画性あり	12	3	15
数時間	3		3
1～3日	1	3	4
2週間	2		2
1～3か月	5		5
1年	1		1
③被害者の加害者との関係	16	6	22
被害者が不特定	8		8
被害者が特定	8	6	14
④自己顕示欲、再犯の可能性の意識	17	8	25
犯行が自己顕示欲を帯びていた者	3		3
再犯の可能性が述べられていた者	3	1	4

○①～③は事件数22件、④は加害者数25名に対する内訳(複数回答)

①犯行動機

・A・B群とも犯行動機は多様である。

②犯行の計画性と期間

・A群では、計画性ありが最も多く、その内訳としては、1～3か月が多いが、B群では、状況依存的と計画性ありが半々である。

③被害者の加害者との関係

・A群では、被害者の特定・不特定が半々であるが、B群では、すべてが被害者特定である。

④自己顕示欲、再犯の可能性の意識

・A・B群とも高い数値ではない。

ける前兆行動（サイン）

所防犯少年部は、平成10年1月から平成12年5月までに発生した22の少年事件について、その背景や学警察研究所防犯少年部作成「最近の少年による特異・凶悪事件の前兆行動等に関する緊急調査報告書」

	事 件 名	性別	年齢	学職	事 件 の 概 要
12	主婦殺人事件	男	17	高2	被害者方において、殺意をもって金槌で主婦の頭部等を殴打し殺害する。
13	大学生人質事件	男	15	高1	大学生を人質にナイフを突き付け「日本国憲法を破棄せよ」と要求する。
14	女子高校生殺人事件	男	17	無	好意を抱く女子高校生に交際を拒まれたため、同人をナイフで殺害する。
15	男性教師殺人未遂事件	女	15	高1	教師を殺せば学校を辞められると思い、教師の右胸等をナイフで刺す。
16	男子中学生殺人事件	男	14	中2	下級生に殴打されたことに激高し、ナイフで同人の腹部を刺し殺害する。
17	成人女性リンチ（傷害）事件	女	17・17	無有	成人女性から悪口を言われたため、同人の両耳たぶをハサミで切り落とす。
18	男性教師殺人未遂事件	男	16	高2	教師からの注意に憤慨し包丁で突き刺すが、他教師に取り押さえられる。
19	主婦殺人事件	男	17	高3	包丁で主婦を突き刺し殺害するとともに、主婦の夫にも斬りつける。
20	高速バス人質・殺人事件	男	17	無	高速バスを乗っ取り、牛刀で乗客1名を殺害、4名に傷を負わせる。
21	成人男性殺人未遂事件	男	17	高2	電車内で男性の頭部をハンマーで殴り傷を負わせる。
22	成人男性殺人事件	男	16	有	店長からの注意に激高し、同人の胸腹部等を包丁で刺し殺害する。

「問題のない子ども」「いきなり型」が属する）、●事件発生以前に、警察に検挙又は補導されたことがある者を「B群」とした。

(3) 少年の背景

項 目	A 群	B 群	全体
①被害経験	9	6	15
犯罪の被害	1	2	3
いじめの被害	8	5	13
家族からの暴力	2	2	4
教師からの過度の体罰	1		1
②対人不適応	8	8	16
孤立経験	7	3	10
不登校	6	4	10
怠学	1	6	7
ひきこもり	4		4
③自殺企画	1	1	2
④加害経験	5	7	12
対人暴力	3	5	8
脅迫	3	6	9
⑤攻撃行動	5	6	11
激高行動	2	6	8
家庭内暴力	3		3
⑥報道、書籍等の影響	11	2	13
事件報道	6	1	7
神戸事件	4	1	5
猟奇もの関係の書籍	6		6
ホラーテレビ	1	1	2
武器関係の書籍	5		5
テレビドラマ	2		2

○加害者数25名に対する
該当者のみの回答
(複数回答)

- ①被害経験
・A・B群とも、いじめの被害を受けていた者が多い。
- ②対人不適応
・A群では、孤立経験、不登校が多いが、B群では、怠学が最も多い。
- ③自殺企画
・A・B群とも1名であるが、見逃せない危険信号である。
- ④加害経験
・A群よりB群の方が多い。
- ⑤攻撃行動
・B群では、すべてが激高行動である。
- ⑥報道、書籍等の影響
・A群では、事件報道、武器関係書籍が多い。

(4) 背景として挙げた事象の把握と対応

項 目	把握なし	把握あり	不明	全体
①被害経験	4	15 (5)	2	21 (5)
犯罪の被害	2	1		3
いじめ被害		11 (4)	2	13 (4)
家族の暴力	2	2		4
教師の体罰		1 (1)		1 (1)
②対人不適応		16 (11)	1	17 (11)
不登校		9 (8)	1	10 (8)
怠学		7 (3)		7 (3)
③自殺企画	1	1		2
④加害経験	6	9 (5)	2	17 (5)
対人暴力	1	5 (3)	2	8 (3)
脅迫	5	4 (2)		9 (2)
⑤攻撃行動		3 (3)		3 (3)
家庭内暴力		3 (3)		3 (3)
⑥メディア影響	13	12		25
事件報道	6	1		7
神戸事件	4	1		5
猟奇書籍	1	5		6
ホラービデオ	1	1		2
武器書籍	1	4		5

○前記(3)の調査に対する回答

- ①被害経験
・いじめの被害は把握があるが、対応は少ない。
- ②対人不適応
・不登校は把握も対応も多い。
- ③自殺企画
・把握なしと把握ありが各1人である。
- ④加害経験
・把握はあるが、具体的な対応は少ない。
- ⑤攻撃行動
・家庭内暴力は、すべて把握され、対応がある。
- ⑥報道、書籍等の影響
・猟奇書籍や武器書籍は把握が多い。

* () 数値は具体的な対応がなされた数値